



第 1 7 号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
靈 亀 山 九 島 禪 院
〒550 大阪市西区本町3丁目4-18
☎06-583-2725
発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)

兵庫県南部地震により亡くなられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに

椰子の実和尚の遺徳を偲ぶ

廿四代住職

弘 忠 大 和 尚 遷 化

弊師弘忠大和尚 年末より風邪にて掖済会病院に入院してありましたが、肺炎を併発し、去る二月三日午後七時四分に遷化(逝去)致しました。時に世寿七十九歳、僧臘五十四年、法臘四十三年でした。

禪家の作法にて、二月八日午前中に起齋法式・鎖齋法式。午後十二時三十分より津葬(葬儀・告別式)を、大本山黄檗宗管長 林文照猊下、総長 乾隆俊禪師をはじめ、四十人近くの内和尚方、その他西区近在の寺院方参詣のもと通夜両日七百九人の会葬者を数えました。和尚は、大正六年七月三日、九島院の長男として誕生。七才で、大本山堂頭 星野直翁管長猊下に就いて得度。本町小学校旧制市岡中学、大谷大学文学部仏教学科卒業の後、黄檗禅堂に掛錫修行。昭和十七年より二十一年までラパウル方面にて兵役を勤め、復員後、公立中学校教員・私立清風高校教師として勤務。師父榮忠和尚の常休寺転任

の後をうけ、昭和廿三年一月当院の住職になられ、廿五年十月廿二日に現今の本堂再建落慶法要を兼ね、晋山式を挙行されました。爾来、四大不調の為平成元年に退任されるまで、実に四十年の長きにわたり、誠心その任に励まれました。

昭和三十九年には、戦災で焼失した朱塗りの龍宮門を復元され、境内墓地造成や無縁塔建立庫裡増改築等々、鋭意、当院運営に心を砕き、当山復興発展につくされました。宗内においても、布教師や教育学諮問委員、座元検定委員、宗務支院長を勤められ、塔頭萬松院廿七代、常休寺十五代、松源寺十四代、久安寺十二代住職も兼務されました。また、大正元年より続いていた澤木興道老大師を迎えての坐禅会を引き継がれ、老大師示寂の後には、当時としては珍しい寺報「龍燈」を発行や種々の布教誌にその健筆をよく発揮されました。

地域社会でも、保護師や本町小学校同窓会会長として活躍され、晩年は、造詣の深い郷土史の講演や老人大学での講義などでのユーモアをまじえた話術は多くの方々の記憶に残っています。母校旧制市岡中学への思い入れは殊の外大きく、口をつけば市岡の話でした。

和尚は先代榮忠和尚ゆずりの美声の持ち主で、読経の声のよさは定評がありました。とりわけ「椰子の実」の歌は、兵隊時代の苦勞(和尚の左耳は上官からのびんたで鼓膜がやぶれ聞こえなかった)を思い出され、晩年、お月参りの折りにお檀家さん宅でよく歌われていました。本当に人柄のよい、気さくな和尚様でした。ご冥福を祈りつつご報告にかえます。尚、総代様より手分けして電話連絡を致しましたが、連絡できなかつたお家もあり、不義理致しましたことを、お詫び申し上げます。



